

## 悩み多き在家の上に

在家の生活態度は悩みの多い罪深いものであります。

昨夜夕食後、裏の方のお家では、ひどい家内喧嘩がはじまって、食器の飛ぶ音、壊れる音、泣き声、どなる声があさましく聞えて来ました。

こうしたことは時々、一家を襲うて来る悲しい嫌な地獄の様であります。

女はよく腹を立てるものであります。男は腹を立ててもあつさりしていますが、女の瞋恚は執拗で、蛇のような毒々しさが、家内の者を傷つけずにはおきませぬ。こうした女が家庭の中にはなくてはならぬものであります。それだけ家庭は罪深いものになるのであります。御文章の中で、蓮如様が思いきった断定を下していられるのが少々味わえる気がします。上人は特に度々奥方をお迎え遊ばして、お子様方も可なり沢山あつたようですから、特に家庭苦については深い体験をなさったのではありますまいか。近頃一家内と皆一緒に住まうようになって、今まで知らなかつた戦いを自分の内に続けて行かねばならぬことを知って、人生の苦悩の一層の深さを味あわせていただきます。

私は腹のよく立つ性格でありました。けれども、私は瞋恚の炎に焼かれている自分を、正しい冷たい智慧をもつて見た時に、大変にあさましいのにあきれてからは、腹が立った時にはすぐ自分にかえって、自分の叡智の光で笑ってやることに致しました。「何だ馬鹿々々しい。何が腹が立つのだ。そんなつまらぬお前か。」と自分を自分で批判する時、冷水を頭からかけるように、瞋恚の炎は消えてゆきます。近頃滅多に腹が立たなくなつて楽になりました。

腹が立った時には女は大抵、食事をとらないものであります。地獄の炎を食つているので、飯も炎になつて食えないのでしよう。

男は腹が立つと、自暴酒を飲んだり、茶瓶を投げたり、口やかましくどなつたり、女をぶつたり蹴つたりするものであります。短気は損気と申しますが、六尺大の男が自分の感情を自分でどうすることも出来ないとは、あさましい愚かなことであります。

腹が立つとものを言わないで、布団をかぶつて寝て、二日も三日も起きない人があります。怒った時にはその一念に、体中の白血球が六万個もこはれて毒になつてしまいます。その毒は血液にすいとられて肺臓に來り、呼吸となつて出て行きます。その毒を一時間とつて集めると、その毒で八十人の人を殺し得るそうであります。瞋恚や嫉妬に魂も体も焦がしながら、だまつて布団の下で寝ておれば、その毒が盛んに寢床から空中に逃げていることでしょう。み仏からでもご覧になればあさましい姿に見えることでしょう。毒を吹く大蛇や鬼のように。

世の中で起る汚い醜い事件は、大抵この腹立ち心からではありませんまいか。世間に出ては遠慮したり我慢したりした感情を、家庭では誰はばからず出して平気でありませぬ。弱い人間どもは自分の内で瞋恚の炎を消しえないで、周囲と一緒に傷つけられないものであります。そうして激した情を外に出してしまえば、案外楽になれるものであります。こうした意味で家庭は汚い感情の捨場でもあるのです。人間の赤裸々な偽らぬ生活であります。それだけ家庭生活は罪深いものなのであります。

腹があまり立たなくなりまると、自分の瞋恚の炎で自分が苦しむことは少いかわりに、他の者が露骨に瞋恚の心をさらけ出すと、そのために苦しまされることが多いのであります。菩薩の「衆生病むが故に我病む」という言葉が味わえると思えます。腹立ち易い妻や、母や弟など持った忍耐強い御主人たちには、そうした御実感があることだろうと存じます。

家内が二人おれば二人の総合苦が生れます。五人おれば五人の総合苦が出来ます。奥様が冷たい情をもつてお暮しなさる日には、小さい子供までその苦を分けて頂かねばなりません。

それぞれの家内がそれに苦しんで行くのを、覚めきつた一人が自分の苦として苦んで行くことは尊いことであります。いずこの家庭でも、家内が瞋恚の炎に焼かれている時には冷たい氷になり、冷たい心に泣いている時には炬燵になり、浮かれている者には気もひきしまる秋風のように、魂の扉を閉ぢようとするものには温い春風のようなになって、覚めて生きている方があるものです。そうした方こそ、魂の底では一番苦しまねばならぬ方であります。けれどもそうした苦悩は尊い菩薩の苦悩であります。

人の魂に痛手を負はす白刃は、愚痴から出る言葉であります。ある意味において、腹立ちよりも私は愚痴がいやであります。人間が過去に生きるようになりますと愚痴っぽくなります。若い人には過去を見て暮すには、あまりに美しい虹のような未来をもつています。段々年老つて来ますと、過去にばかり頭がむいて来ます。そうして再びかえつても来ない過去の「恨めしさ、悲しさ、悪さ、残念さ」を今更のように取り出しては、我と我が魂を苦しめているのが愚痴であります。私も時々愚痴が出ます。「やめた！」と私が、我と我身に言っていることがあります。その時は、私が愚痴と戦っている時であります。一口の愚痴は周囲の者の胸にメスをあてるからであります。とりかえしのつかぬ過去のことを言つたつて、どうにもなるものではありません。

女は年老ると特に愚痴深いものであります。古い古い昔のことを出して言つては、夫の心に生傷をつくりまします。

年老いても魂の若い人があります。常に生々とした魂の声をきいている人は、愚痴から遠ざかります。若い人でも魂に永遠の青春が輝いていない人は、昨日を泣き昨年を恨み、十年前を考えて悲しんでいます。念仏の子はこの硬化しそうな魂と戦つて、常に若々しく努力精進して、光のある生活を恵まれています。このまんまに坐りこんだ同行は、この若々しさを失っています。

癩癩や愚痴は誰でも出るのであります。けれども、腹の立った時、泣く涙に二通りあると存じます。自分で自分を救い得ない者は「どうしてこの恨みを晴そうか。こうしてやろう。残念なことをした。」とより深い苦悩に自分を落しています。そうして感情は静まつても、後には深い恨み、愚痴が残ります。

どんな時にもすぐ自分の本心にかえる人があります。そうして、激発した醜悪な感情と戦つて自分に克つ人であります。自分をちよつとでも高めようとする人は自己と戦います。瞋恚の炎に焼かれている罪深い自分をみ光の前になげ出して、み仏を苦しめ奉るあさましい自分を懺悔し、かかる機までを救いたまいし大悲の御恩の深さを感謝致します。

ともすれば自分の本心を忘れようとする自分どもを、常に、鋭い智慧光によりて照し出して、あさましさを知らせて下さるところに、仏恩の深さがあるのでございましょう。

仲の悪い嫁と姑とが説教を聞きに行きました。講師は信後の生活、真俗二諦の宗風について懇に語っていました。俗諦行儀について例話を引いて、勘忍深い妙好人の話を致します。聞いていた二人の内一人は、「あの話をよく聞いておいてちつとは自分の行いをなおせばよいに、よい話をしてくれられた。あれで胸がすつとした。」と相手の上に皮肉な眼光を投げかけました。一方は涙ながらに聞いて思いました。「いいお話をきかせて頂いた。私は何という罪深い者だろうか。あのお話は極悪邪見な私への御説法である。」と罪深い自分の日暮しに泣き、悪業に目覚め、かかるあさましい自分の魂を撰取して捨てたまわざる大悲の恩徳を、ほればれと讃仰しているのであります。

一歩々々がお浄土へ運ばれている人と、一息一息が地獄へ地獄へと近寄っている人との生活がはつきり別れています。

在家の生活態度は、罪深いあさましいものであります。繁華な街、静かな村落、寂しい山里、至るところに家を営んで、人が住んでいる姿はなつかしくも哀れを催します。皆地上苦、家庭苦をなめつつ生きています。

その人間苦の赤裸々な内に、み光の流れたもうことに目覚めた家庭は、恵まれた尊いものであります。

觀無量寿経には、「下品下生とは、あるいは衆生有りて不善業を作り五逆十惡諸の不善を具せん。この如きの愚人……。」と仰せられます。如何なる難治の三機も、如何なる大悪人も、如来の慈悲光に撰取されます。

蓮如上人の御文にも「又つみは十惡五逆、謗法闡提のともがらなれども、廻心懺悔してふかく、かかるあさましき機を、すくひまします弥陀如来の本願なり、と信知して、ふたごころなく如来をたのむこころの、ねてもさめても憶念の心つねにしてわすれざるを、本願たのむ決心をえたる信心の行者というなり。」とあります。

悪人正機の本願の救済は、在家の上に打ちたてられています。「妻は輪廻のなかだち、子は三界のくびかせ。」と申します。けれどもこれは聖道諸宗の方から言ったことでもあります。親鸞聖人は、奥方を觀世音菩薩の化身として家庭の人におなりなさいました。意味深いことでもあります。弥陀の本願が、肉食妻帯夫婦の愛の上に、煩惱の盛んなる強健の身体の上に、そこから生れ出る家庭苦の上に、家庭から拡がる社会の上に、国家、世界、十方衆生の上のうちたてられてあることを思う時、家庭は決して地獄者の道連れではなくて、悟道さとりへの道場であります。妻も子も親も兄弟も、それは極楽への同行であります。ここに家庭の罪深さが、何時の間にもやら価値の転換をされていきます。

苦しいからというので、家庭からのがれたいと思うことは卑怯なことでもありません。悩み多き在家の上に、それを浄化し、転化して下さる光を見出させて頂いて生きて行くこそ、煩惱即菩提と悟りたまひし釈尊の魂にふれて行く道でありましょう。現実の苦しきこそ、力弱い私どもが、力強い真実生命を見出す縁ともなり易いことを思う時、人間が皆、家庭の赤裸々な姿の上にほんとの自分の宿業を見出し、その上に流れたもう如来願心にふれて救われて行きますように、救われた者は、家庭苦の真つただ中に、み仏の慈光をよろこびましまして、いよいよ信仰を深めて行くことは嬉しいことでもあります。かくして一切世間の家庭が尊い学仏道場になりますように念願してペンをおきます。